



▲定榮さんファミリー（左から 政隆さん、創太朗ちゃん、沙起さん、環之介ちゃん）

2 | 特集 あなたのひた暮らしを応援します

人と人をつなぐ

移住支援策を活用した県外からの移住者数が、大分県内で4年連続第1位となりました。今回は、本年5月に大山町へ移住してきたガラス作家の定榮さんファミリーに、移住のきっかけや現在の生活などを聞きました。また、その移住をサポートする皆さんも紹介します。

問ひた暮らし推進室 ☎ 8 3 8 3（市役所6階）

県外からの移住者数

4年連続第1位の日田市

移住者を受け入れるには、充実した移住支援策があるのももちろん、移住者を受け入れる体制が整っている必要があります。

日田市には、移住前から移住後までの切れ目のない支援があります。こうした取り組みをお知らせすることで、一人でも多くの人が移住者に対する理解を深め受け入れる態勢を整えれば、移住者も安心して生活できるまちになれると考えています。

定榮さんにインタビュー

移住したきっかけは？

長男が幼稚園に行きたいと言いだしたことがきっかけで、SNSで「森のようちえん」を検索したところ、そこで遊ぶ子供たちのいきいきとした表情にひかれて、日田市を選びました。

園の活動を見学し、ここなら大丈夫だと確信し移住を決めました。以前からガラス作家をしており、自宅で作業ができるので、仕事探しの面でも影響はありませんでした。日田を訪れたのは1回だけです。特に不安はなかったですね。

住まいはどのように決めたのですか？

園の人に紹介していただいた、NPO法人リエラの河津さんに連絡を取って、見学や家探しに同行していただきました。連絡をこまめに取っていたので、初めて会うのに前から知っていたみたいで、気さくに接してくれて緊張がほぐれました。

空き家バンク物件を何件か見学しましたが、なかなか希望の物件に巡り合わずあきらめかけていました。そのとき、空き家になったばかりの物件を河津さんに紹介してもらい、そこに決めました。改修の必要もなく、すぐ住み始めることができました。

移住先を検討した期間は2週間ほどです。移住先も家も全てがタイミングよく決まり、これも何かの縁だなと感じています。

近所の人には、よく野菜をもらったり、声を掛けてもらったりしています。大家さんのご両親も隣に住んでいるので困ったときも心強いですね。

これからは草刈りや祭りなど地域の行事にも参加して地域に馴染んでいこうと思っています。



1



2



3

- 2年前に沖永良部島に移住し、2020年5月大山町へ移住してきた定榮さんファミリー。後ろに見えるのが、紹介のあった現在暮らしている家です。
- 定榮さん家族と話すNPO法人リエラの河津さん。移住相談をしていた当時の思い出を語っています。
- 定榮さんが作るガラス作品。一つひとつが非常にきめ細やかで、約180種類の色の中からカラフルな作品を作り上げています。いつまでも見惚れてしまう素晴らしい作品です。